

論文審査の結果の要旨

| | | | |
|---|----------------|------|------|
| 報告番号 | 博(医歯薬)甲第 385 号 | 氏名 | 長寄寿矢 |
| 学位審査委員 | 主査 | 伊藤 敬 | |
| | 副査 | 河野 茂 | |
| | 副査 | 上平 憲 | |
| <p>論文審査の結果の要旨</p> <p>1 研究目的の評価 本研究は、肺癌治療における 5-FU 及びその代謝産物の効果と 5-FU の変換酵素との関係を明らかにしようとしたもので、目的は十分に妥当である。</p> <p>2 研究手法に関する評価 長崎大学附属病院で手術された肺癌 93 例（腺癌 34 例、上皮癌 13 例、大細胞神経内分泌癌 31 例、小細胞肺癌 15 例）を用いて、5-FU 関連酵素と臨床病理学的因子や予後との関連を検討した。5-FU 関連酵素であるオロト酸ホスホリボシル転移酵素(OPRT)、5-FU の標的酵素であるチミジル酸合成酵素(TS)、5-FU の異化酵素であるジヒドロピリミジン脱水素酵素(DPD)の発現レベルは、レーザー・キャプチャ・マイクロダイセクションによる選択的に RNA 抽出と RT-PCR 法により測定し、さらに免疫染色によるタンパク発現についても検討しており、研究手法も妥当である。</p> <p>3 解析・考察の評価 上記手法で解析した結果、TS の発現レベルは、上皮癌に比し神経内分泌癌で有意に上昇し、これは臨床的に神経内分泌癌が予後不良な病型であることを裏付ける結果となった。上皮癌では OPRT の発現と予後との間に有意な関連が見られた。これらの結果は今後の肺がん治療への応用が期待される。</p> <p>以上のように本論文は肺癌治療研究に貢献するところが大きく、審査委員は全員一致で博士（医学）の学位に値するものと判断した。</p> | | | |